



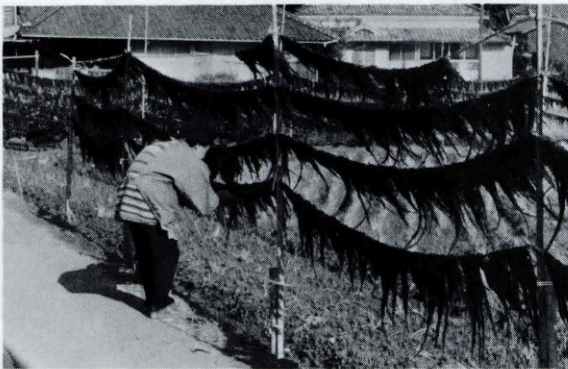
消防演習

秋の全国火災予防運動の一環行事として、役場から火災が発生したという想定で、消防団、消防署の出勤により12月2日、役場で、消防演習が行なわれました。職員の自衛消防隊による初期消火訓練、消防機関による防ぎよ活動、人命救助活動と演習を行ない、前庭に於いては消火器による消火実験が行なわれました。



巡回行政懇談会

みなさんのナマの声をあすの町政に反映するため12月1日から各部落に於いて巡回行政懇談会が開かれております。行政も多様化し、みなさん方と直接ひざを交えて話し合うことで心のふれあいを図り、住民の意見を聞く会です。すでに7地区9部落で開かれました。今月から又開催されます。



青のりとり

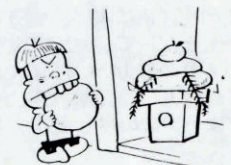
冬の味覚、青のりとりがさかんに行なわれています。11月の初めに、三隅川河口に竹を立て、幅1.2m長さ18mののり綱をうかべ養殖していたのりも、寒さとともに風美を増し、冷たい水中、一握りづついいねいにつみとられています。あたたいごはんにのせるとつい一杯多くなるものです。



サッカー教室

たくましい三隅っ子の育成事業の一環として町内在住のスポーツ少年団員並びに小学生四年以上を対象に体力の増強とサッカー技能の修得をめざしあわせて何事にも最後までやりぬく精神力をつちかうことを目的に第七回少年少女のサッカー教室を十二月二十五日、二十七日にかけておこなわれました。

〔鏡もち〕



昔一といっても、ついこの間までのことですが、正月の鏡開きの日はコチコチになってヒビの入った鏡もちを金づちで割って、お汁粉に入れて家中で大喜びして食べたものです。ところが最近では、この江戸時代から続いてきた儀式も家庭では、だんだんすたれていくようです。もっとも、いま市販されている鏡もちは、二段重ねのものを重ねたままポリでパックしたものが多く、なんだか「儀式」としてのもち味も薄れた感じがしないでもありません。もちも世につれ一ともいいいましょうか。

そういえば、戦争中は米がなくて土の素焼きの、鏡もちを飾ったことがありました。鏡もちのいわれは、丸い金属の鏡をかたどったもちを神に供えたもの、また、人の心臓をかたどったものなどの説があります。もちの形は地方によって平らな丸もちだったり、重ねも三枚のところがあるようです。呼び名も、おそなえ、おすわり、一などいろいろ。それにしても、鏡開きという江戸時代からの伝統がだんだん奇っ怪になるとともに家族が共に相寄り祝いの事をする機会がまた一つ消えていくうとしていくことも事実です。